

2006年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、高緯度についてはタイミル半島で正偏差となり、そのほかの地域では負偏差となった。一方、中緯度では極東域の広い範囲で負偏差となった。太平洋中緯度では、日付変更線付近に正偏差が見られ、第4半旬まで持続した。

熱帯の対流活動は、インドネシア付近を中心とした広い地域で平年より活発、日付変更線付近、東部太平洋では不活発となった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、太平洋では広く高気圧性循環偏差に覆われ、西部、中部では東風偏差が分布した。この傾向は、2005年3月以降持続している。一方、インド洋では赤道ロスビー波の西進に対応し、赤道を挟んで低気圧性循環偏差の対が見られた。

SOI (南方振動指数) は+1.0となり、先月より基準値に近づいたものの、プラスの値が続いている。

世界の天候

① シベリア北部の低温

② 中国の高温

中国東部や西部で月平均気温が高く、異常高温となった地点もあった。トゥンホワン (敦煌) では

14.5°Cとなった (平年: 12.4°C)。

③ シベリア南部からトルコ東部の多雨

④ ヨーロッパ北部からグリーンランド東部の高温

⑤ 黒海西部周辺の少雨

⑥ ヨーロッパ南西部からアフリカ北西部の高温

⑦ 北米東部と南部の高温

⑧ 米国中西部から西部の多雨

米国では上旬や月末に中西部や南部で竜巻が繰り返し多発し、合わせて50人以上の死者が伝えられた。米国西部のカリフォルニア州では3月からの大雨による被害が報じられた。カリフォルニア州サンタマリアでの月降水量は99 mm となった (平年: 22 mm)。

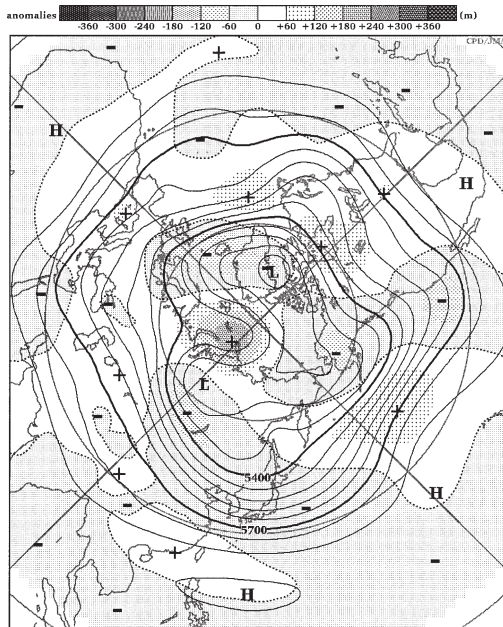
⑨ メラネシアからニュージーランドの高温

⑩ ニューギニアからオーストラリア北部の多雨

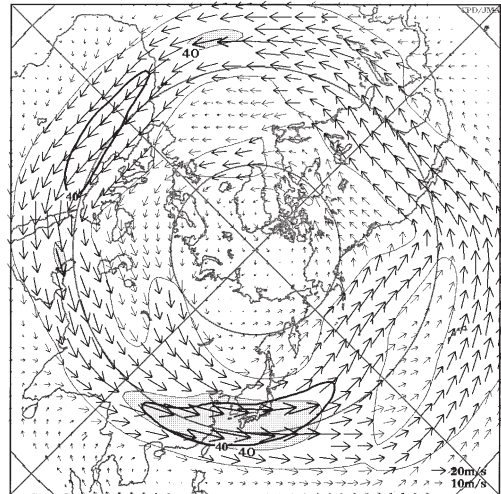
ニューギニアからオーストラリア北部ではトロピカルストームや平年より活発なモンスーンの影響で降水量が多かった。オーストラリア北部では上旬に洪水の被害が報じられた。オーストラリアのケアンズ国際空港では月降水量が635 mm となった (平年: 236 mm)。

⑪ オーストラリアの低温

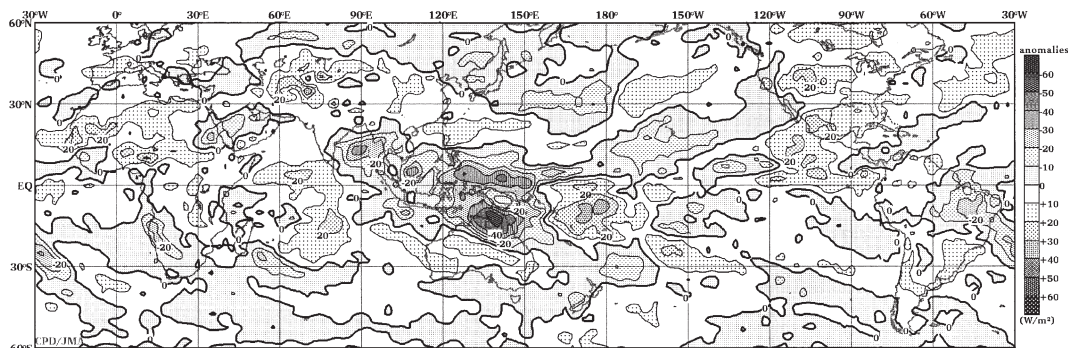
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 宮岡健吾)



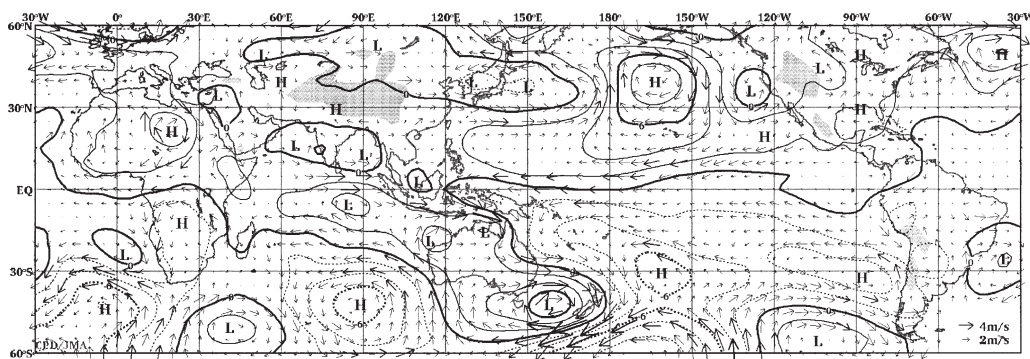
2006年4月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



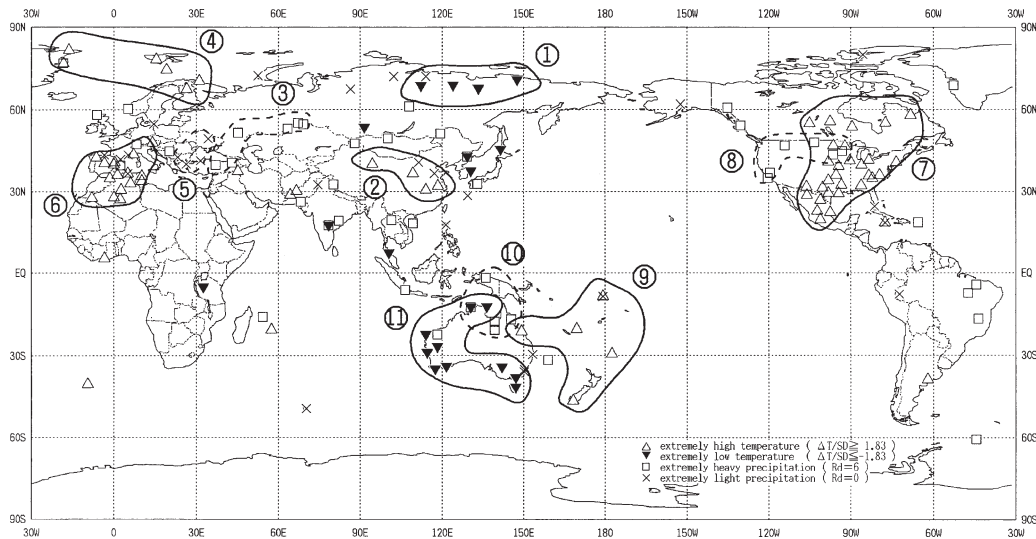
2006年4月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年4月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはCPC/NCEP/NOAA、平年値は1979~2000年のデータから作成。



2006年4月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0、図中の番号は本文中の番号と対応している。